

小野塚芳雄先生：人と学問

齊 藤 壽 彦

小野塚先生は私が千葉商科大学に奉職した翌年の昭和50年4月に本学専任講師に任用されて以来、助教授、教授を経て、37年の長きにわたって専任教員として本学の教育、研究、学内教学行政に尽力されてこられました。小野塚先生と私との友人関係は37年以上にわたるということを思うと感慨深いものがあります。

小野塚先生は教育面では情報処理、経済統計、計量経済学などの授業やゼミナールを担当され、また大学院の授業も担当され、大変熱心に学生を指導されてこられました。現在も非常勤講師、客員教授として本学学部や大学院の授業を担当されており、また本年度に本学名誉教授に就任されています。

研究面では、1989年度に本学在外研究員としてアメリカに派遣され、研究を深化されています。

専門分野の研究に関しては、研究論文の執筆や学会報告などで次のようにさまざまな成果を挙げられています。ハロッド＝ドーマー・モデル、ソロー、ミードなどの新古典派成長理論を研究され、そこで基本になる生産関数の実証研究としてコブ・ダグラス生産関数の計測を行われ、日本経済学界（旧理論・計量経済学会：1973）で報告されました。その後、消費関数、投資関数の計測をもとにマクロ経済モデルを開発し「石油ショックと日本のパフォーマンスの計量モデル分析」(1984)、「雇用・物価・貿易摩擦問題の計量モデル分析」(1987)などの論文で現実の経済問題分析に取り組みられました。近年においては為替レートの影響（「為替レートの計量モデル分析」2007年）、財政問題（2011年「財政の計量分析」）の分析へと計量モデルを拡張し、約40本の行動方程式で構成して分析されています。為替レートの分析理論はマンデル＝フレミング・モデル以来、マネタリー・アプローチ、ポートフォリオバランス・アプローチなど多くの分析理論が試みられていますが、小野塚先生はそれらを精査検討し計量モデル開発に取り入れられています。

また、産業や地域の社会経済の分析を行われ、「資源配分原理の計量分析」(1976)、「千葉県の将来都市人口の予測」（『国府台経済研究』第7巻、1995）の研

究もあり、後者は商大経済研究所での第1号共同研究プロジェクトとして始められたものですが、東京湾横断道路の影響予測をテーマにした研究調査でそのために先に出来た瀬戸大橋の現地調査（坂出市など）を踏まえて行われた研究です。この概要は『毎日新聞』千葉版（1996年1月28日）に記載されています。

1999年に私が日本貿易振興会とアジア経済研究所の委託を受けて「千葉県とアジア太平洋情報ネットワーク形成—情報の発信と共有—」と題する論文をまとめた時には、小野塚先生から情報提供を受けました。

また教学行政面でも大学に貢献されており、2004年度～2005年度には商経学部経済学科長、2008年度～2009年度には大学院経済学研究科委員長の職を引き受けられました。また長くコンピュータ室委員として商大のコンピュータ施設整備のために、委員長である下澤先生のもとで努力されてきました。

市川市総合計画審議会委員を務められるなど、社会貢献活動もされています。

小野塚先生のお人柄は温和で、誠実で、また大変気さくなところがあり、談話室で昼食をとりながらいろいろな先生方とよく世間話や時局放談を楽しそうに行われていました。私は時間的に余裕ができた時に、気分転換を兼ねて小野塚先生の部屋に押しかけて、自由に学内外情報交換などを行い、有意義なひと時を過ごしました。小野塚先生は情報の分野の研究者ですが、また多くの友人に囲まれ、人的な情報のネットワークも豊富で、学内情報に非常に通じておられました。

先生は仕事上、コンピュータを大いに利用されますので、コンピュータの苦手な先輩の先生の手助けを苦にせずに行われていました。私もコンピュータに不具合を生じると、小野塚先生のご都合も顧みずにすぐに電話して小野塚先生に研究室まで来ていただき、コンピュータのチェックをしていただきました。もちろん無報酬でしたが、先生は嫌な顔ひとつせず、私の依頼を応じて下さいました。

小野塚先生は、趣味というか気分転換か、レコード（CDでなくて）でバッハを聴くことや美術館巡りに出かけて行くことなどを楽しみにされています。また、食通です。

私はしばしば小野塚先生や太田三郎先生などと会食をいたしました。同じ釜の飯を食った仲という言葉がありますが、確かに食事を一緒にすることで私達の友情が深まったと言えそうです。年齢的には私の方が若輩といえるのですが、そのことを

忘れて私は小野塚先生と自由に歓談させていただきました。

私は中央線の荻窪、小野塚先生は中央線の三鷹で下車するという関係上、大学の帰りに総武線、中央線の同じ列車に隣り合って座り、雑談に興じるということがよくありました。周りを気にかけずに大きな声で話して、そばにいた乗客には迷惑であったかもしれませんが、時が経つのも忘れて話に興じて、あっという間の45分間をしばしば過ごしました。なにを話していたか、よく覚えていませんが、とても楽しいひとときを過ごせたということは確かです。

現在、小野塚先生は年齢を感じさせず、とても若々しく見えます。大学にも毎週こられ、顔を合わせるが多いので、小野塚先生が定年退職されたとは私にはなかなか思えません。私は、小野塚先生の今後の健康と研究継続を祈念するとともに、今後とも小野塚先生との友情を育んでいきたいと思っています。